

料金後納

ゆうメール

一幸建設は昭和53年の設立以来、三河エリアで地元密着での建築と不動産に携わる会社です。本来ならば直接ご挨拶申し上げるべきところ不躰ではございますが、私どもの会社を知っていただきたいとの思いから、一度でも名刺交換などでご縁を賜りました方に、ニュースレターを送付しております。仕事でかわった皆様にお力添えいただきながら、社員の幸せと日々の成長を糧に、地域の皆様に必要とされる地元でのお役立ち企業を目指しております。

東三河での建築と不動産に関することでしたら、小さなことでもお気軽にご相談ください。

代表取締役 山本敬輔 営業スタッフ一同

持続可能な開発目標（SDGs）への第一歩

今日の社会において、持続可能な開発目標（SDGs）は、全ての人に向き合い、取り組むことが必要であると感じます。毎年、当たり前のようにこの時期に頻発するようになった温暖化に伴うと思われる自然災害についても、各地で大変痛ましい傷跡を残しており、看過できない状況になっています。何も考えず単に経済的な豊かさや、利便性だけを求めて行くという考え方から、変化せざるを得ない時代にきたのだと思います。当社においても、今後事業活動を行っていくうえで、自分たちの子孫に誇りをもって事業を残すことができるよう、また、地域社会からも理解や共感が得られるよう、基本的な事項を発案し、社内での意見交換を行いました。

最終的に6つのゴール目標を設定し、豊橋市SDGs推進パートナー登録企業にも申請を致しました。来月にも登録・公表されるようです。掲げた目標を達成することが出来るよう、会社の経営理念と同じく、社員はもちろん、協力業者・パートナー企業とも課題を共有し、次の世代にも必要とされる持続可能な企業となれるように取り組んで参ります。



2008年豪雨災害、内張川の用水路が氾濫しナノハナ電車広場一帯が冠水。まだ線状降水帯などの言葉が聞き慣れなかった頃。

ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB） 有限会社府中屋様 新社屋 完成見学会



兼ねてよりご案内しておりました、府中屋様（市内問屋町）新社屋が完成し、施主様のご厚意により8月30日・31日の2日間に完成見学会を行わせていただく運びとなりました。建築物等の脱炭素化・レジリエンス強化促進事業（経済産業省・国土交通省・厚生労働省連携事業）の認定補助の対象となった新社屋のお披露目となります。

企業の環境配慮活動として、エネルギー性能の高いZEB認定の社屋を建設・所有されたこと自体、高く評価されることです。創立は明治中期となる老舗釣具卸商の新たな時代の幕開けとなる、また従業員の皆様が誇りを胸に、のびのびと働くことができる、府中屋様の経営ビジョンに相応しい、素晴らしい新社屋となりました。初日のみとなりますが、(株)加藤設計様の建築士によるZEB設計セミナーも行います。ZEB認定物件の見学が出来るまたとない機会ですので、是非ご予約のうえご来場ください。詳細は同封チラシをご確認ください。

地元密着東三河での不動産と建築のことなら小さなことでもお気軽にご相談下さい！

※ニュースレターがご不要な場合はお手数ですが0532-46-9336まで

増築工事の計画

住宅の増築工事を行っています。既存の建物は13年前に弊社

で新築を承ったものです。ご自宅の敷地は土地区画整理の事業地内にあり、土地の換地が行われると従来の敷地の形状から変わる計画になっていました。敷地の真横にもう1本道路が通ったり、道路幅が広がったり、水路沿いの道が歩行者専用道になったり、お隣さんは近くに移動になったり。お客様の敷地だけでなく周囲の様子も変わっていました。

今回の工事では、今は古い別棟にお住いの息子さんご家族との同居を始めるため、居住スペースを広げます。既存の建物そのまま、同居を始めても問題ないくらいの広さがあるのですが、これからも円満な生活が出来るように、プライバシーにも配慮した増築を行います。



実はこの増築は、既存の建物の新築時からの計画で、いずれは息子さんご家族に譲ることを前提に建てられています。区画整理事業の進捗を待っての13年越しの計画実行となりました。増築するとき、うまく廊下部分と結合できるように、新築時の設計にも工夫しています。

また、新しく接する道沿いに車を止めるスペースを整備し、将来に備えスロープも計画しました。こちらの計画が落ち着いたら、次は古くなった貸家や、離れを解体しお庭をすっきりさせる予定だそうです。町の変化を経ながらも、愛着のある我が家をお手入れしながら、世代を超えて、受け継がれるのはうれしいですね。これからも、弊社で出来る限りのお手伝いをさせていただきたいと思っています。

営業・設計 山崎

イベント自粛

コロナ禍のなか、今年も残念ながら各イベントが中止となって

しまいました。豊橋市でも毎年夏にイベントとして6月から行われる出店が立ち並び夜店が中止となり、7月に行われる祇園の花火も規模が縮小され、集客がほとんど行われませんでした。それでも祇園祭りの日には打ち上げ花火は実施され、私は運良く見る事ができました。

私自身生まれも育ちも豊橋なのですが、今まで当たり前にあったイベントが自粛され、仕方がない状況とは言えやはり少し寂しいものがあります。東三河伝統花火である手筒花火も五穀奉納や疫病退散の目的があると聞いたことがあります。

今までただ綺麗だなと見てきた普段の光景が、なかなか開催できなかったり、世界中が困っている状況下では、より大切に思えます。コロナ禍のなかで、以前と全く同じようにはいかないかもしれませんが、また多くの人を楽しむことができるようになると良いと思います。

同じように経済や、事業などそれぞれ工夫が必要になる時代かと思いますが、建設や不動産の観点から状況に合わせて色々なアイデアを考え、今後も地元豊橋を盛り上げていければと思います。



建築不動産営業 筒井